

2023年 8月 18日
一般社団法人 新金属協会
化合物半導体部会
部会長 後藤 康浩
JX金属株式会社
薄膜材料事業部 営業部
化合物半導体担当部長

2022 年度通期の化合物半導体の出荷統計について

2022 年度通期（2022 年 4 月～2023 年 3 月）の化合物半導体材料の出荷統計がまとまりましたので別紙の通り発表いたします。

2022 年度通期（2022 年 4 月～2023 年 3 月）の化合物半導体製品の出荷額は、306 億円となりました。結晶別では、InPが増加し、GaAs、GaPが減少、その他が微増致しました。用途別では可視LED、その他が減少し、赤外LED、LDが増加致しました。

1. GaAs

2022 年度通期の GaAs の売上高は、172億円となり、国内、海外ともに減少しました。GaAsの主な用途市場はスマートフォン等に使用される高周波デバイス、また各種の表示機器やセンサ等に使用される可視・赤外 LED、および光ディスク・加工機・センサ等に使用されるレーザダイオード（LD）等がありますが、2022 年度はコロナ特需の一巡や世界情勢不安定によるマクロ景気の減速の影響を受けたものと推察しています。

2. GaP

2022 年度通期のGaP の売上高は、12.8億円となり、国内、海外ともに減少しました。GaPの主要用途は可視LEDです。一旦、コロナ対応のための在庫積み増しによるGaP-LED使用機器の回復傾向が見られましたが、国際情勢の変化による家電等の需要減により在庫過多となり減少傾向に転じたと推察しております。

3. InP

2022 年度通期の InP の売上高は104億円となり、国内、海外ともに増加しましたが、22年度上半期が21年度下期比26%増となった一方、22年度下半期は上半期比22%減となっております。世界的なデータトラフィック増がInPの主用途である光通信用の受発光素子の需要牽引した状況が22年度上期まで継続しましたが、下期に入り、コロナ禍の過剰在庫積み上げ顕在化にデータセンター需要減速要因が加わり、各サプライチェーン過剰在庫の調整期に入ったものと推察いたします。

<お問い合わせ先>

JX金属(株) 薄膜材料事業部 営業部(化合物半導体担当) 主席技師

中村 正志

電話 03-6433-6066

e-mail : nakamura.masashi.pg9@jx-nmm.com